

所管事務調査として、11月7日～9日の2泊3日の日程で九州3市の行政視察を行いました。

視察初日は大分県竹田市（人口2万3,000人）を訪問し、温泉資源を有効に利用した竹田式湯治の取り組みを学びました。

「温泉療養保健システム」とは、温泉を健康づくりに活用するために全国に先駆けて発信している制度です。もっと多くの人に温泉を健康づくりに役立ててもらいたい。そんな思いから、温泉を使った滞在に「保健」を適用することで皆さんにも温泉をより身近に感じてもらい、利用しやすくするためにスタートしたシステムです。そうした中で竹田式湯治パスポートを発給し、市内に宿泊する人に給付と特典を付け、温泉療養者を増やすとともに観光振興を図る取り組みです。

温泉効果を最大限に活かし、観光とまちづくりの取り組みは我が長門市においても大いに参考になり、今後温泉の効能をアピールし、「温泉療養」をキーワードに健康増進による医療費削減と観光による地域活性化を図ることが必要と感じました。

視察2日目は福岡県久留米市（人口約30万6,000人）を訪問し、久留米まち旅博覧会事業の取り組みについて学びました。

この事業は、久留米に暮らす人々が、普段から慣れ親しんだ地元の歴史や自然、文化など地域の資源を活かし、磨き上げ、自らが訪れる人をもてなす体験交流型観光プログラム（通称「まち旅」）。毎年地元市民がプログラムを計画し、自分達で観光客をおもてなしすることで、地域の活性化と久留米の知名度アップに繋がっています。

長門市にも素晴らしい自然環境と歴史、文化や多くの観光資源があるが、再発見し、もっとアピールする必要があります。

視察3日目は福岡県古賀市（人口5万8,000人）を訪問し、全小・中学校での2学期制実施について学びました。

「日本一通いたい、通わせたい学校をめざす取り組みについて」の目標をかかげ、平成15年より3年間試行し、平成18年より本格実施。学期の期間を長

くすることで、授業時数の確保や、教育課程の在り方について創意工夫することにより、学校の教育活動にゆとりを生みだし、その分補充学習や発展学習、きめ細かな指導と評価を行い、教職員と児童制度が触れあう時間が増え、積極的な教育活動を行い、特色ある学校づくりを推進するとのことです。当初は少し戸惑いもあったが、今では全く問題ないとのことです。

我が長門市も今後の課題として取り組む必要があるかもしれません。

古賀市では着用しなくなった制服をお預かりして、必要となった方へ無償でお譲りする制服のリユース（再利用）に取り組まれており、保護者から大変喜ばれているとのことです。これはすぐにでも取り組みはできるのではと思いました。